


咲、  
カ、  
ソ、  
ウ、  
の  
ち

秋のお彼岸・御会式





宗祖日蓮大聖人の命日の法要をお会式といたします。10月、11月になると全国各地の寺院教会などで宗祖の御生涯を偲び、宗祖へ感謝の気持ちを届けようと檀信徒が集まり法要が行われます。

このお会式の「会」の旧字体は「會」ですが、この字の成り立ちを紐解くと、ふたのある鍋の形にたどり着きます。この鍋でいろいろなものを集めて煮込んでいる様子から「あつまる・あつめる・あう」の意味になったといわれています。

宗祖のご信仰のあとに連なる私たちは、当たり前のことですが性格も違えば、境遇も異なります。お経をスラスラ読める方もいれば、そうでない方もいます。ですがそういう違いを取り払って一堂に会し、宗祖に相對して合掌しお題目をお唱えすることが大事なんだという思いが「会」という字から読み取れます。

法要に出られた際に、一度周りの声や音に耳を傾けてみてください。僧侶の声だけでなく、男性や女性の声、若い人の声、子供の声も聞こえるかもしれません。その一人一人の声がだんだん溶け合って、一つのハーモニーになっていきます。そのハーモニーの中に自分の声も加えてみましょう。より一層素晴らしいものになっていくことでしょう。これが異体同心のお題目です。

私たち一人一人は様々な違いがあります。しかし、末法に生きる私たちの為に命をかけてお題目の信仰を貫き通された宗祖への感謝の気持ちがかもったお題目は必ず宗祖に届いています。どうぞ菩提寺やご本山のお会式に足を運ばれ、心からお題目をお唱えください。そしてお帰りの際には御宝前にいらっしゃる宗祖の顔をご覧になってみてください。きっと優しいまなざしで皆様をお送りしてくださることでしょう。

